

TITLE
jerry fish

F.S

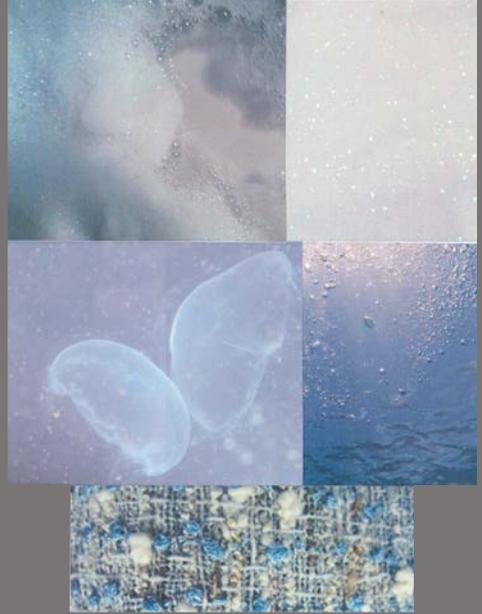


■製作にあたって

イメージは泡です。水族館でクラゲを見た時に水槽の中でエアールからでくるぶくぶくとした泡とクラゲの丸みを帯びたシルエットがすごくきれいでこれを服にしたら面白いのではないかと思います。シルエットでクラゲをテキスタイルで泡を表現したいと思います。尾州産地の特徴でもあるウールを使用し、ツイード系の軽いもので立体感を出すためにポンポンのようなヤーンを使用し泡を表現したいと考えています。全体的に白をメインにし、泡のキラキラとした感じを出すためにシルバー系などの意匠糸を混ぜたいと考えています。全体的にボコボコと柔らかいテキスタイルに仕上げたいです。

IMAGE

B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

イメージにとっても近い素材になったと思います。スポーツMIXということでストレッチ性を重視したので、当初のイメージしていたハリ感より柔らかく仕上がりましたが、意匠糸で表現した泡がもこもこと柔らかく表現されているのでとても気に入るものになりました。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

テキスタイルについての知識が浅く苦手意識があったのですが、翔工房に参加し、実際に工場見学に行ったり匠の先生のお話を聞いたりしてテキスタイルがどのように出来上がっていくのかを1から学ぶ事が出来ました。今後はこの経験を活かして、今まで以上に素材の特性をいかしたアイテムの提案を勉強していきたいです。

TEXTILE



ZOOM

W60%、N20%、R10%、Pe7%、An2%、Pu1%



●協力/㈱ソー、(有)捲春、マルシデザイン、渡六毛織(株)
(順不同)

TITLE
fossil 化石層

F.S



B.S



裾のところは少し
暗くグラデーション
にしたいです。



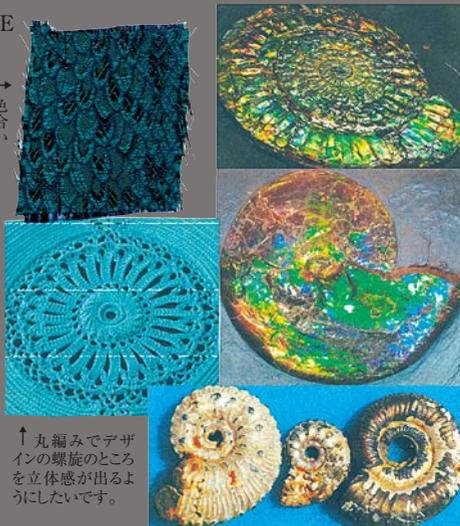
ずらして
リピート

■製作にあたって

デザインは化石層です。進化という考えの一つの起源が化石の研究だと思いき、その起源、始まりの化石を大切にするという意味でタイトルを化石にしました。古くからの伝統を大切にされている尾州の産地の織物技術とかさね合わせて新しいもの、進化していくものを造っていきたくて思いました。ニット生地で少しバリっとした風合いを出したいので糸は紙を織り込みたくて思っています。色はカラフルな光沢のあるアンモナイトなのでイメージしたので虹色の糸でやりたいです。裾のところは少し暗くグラデーションにし、丸編みでデザインの螺旋のところが少し立体感が出るようにしたいです。化石のどこか暖かみがあるところも表現したいので、特殊タンブラー加工で適度な膨らみ感を出したいと思っています。

IMAGE

→
色合い



↑ 丸編みでデザインの螺旋のところが立体感が出るようにしたいです。

■当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージでは、少し立体感のあるものを考えていましたが、川村先生の提案で糸を緋染めしたことや、手染めでグラデーションやまだらに染めることにより凹凸がなくても化石層が上手く表現できたと思います。グラッドはウールの緋の糸を使用し、化石部分はポリエステル糸を6色使い表現しました。化石の大きい柄もダイナミックに表現でき、イメージに沿うものになりました。

TEXTILE



●協力/MKカンパニー、丸金織維(株)、豊島紡績(株)、(株)タロダ、尾泉染色(株)、藤井整絨(株)、山勝染工(株) (順不同)

ニット生地です。少しバリっとした風合いを出したいので糸は紙素材を織り込みたくて思っています。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

テキスタイルになった時の色のバランスや化石の柄や配置をイメージだけで決定していくのは難しく苦労しました。しかし、川村先生と何度も打ち合わせを重ねるうちにイメージに近づいていきました。ニットの様々な表現を生み出せる可能性を知り、もっと深く学びたいと思いました。

ZOOM

W28%、Pe72%



TITLE
Break

F.S

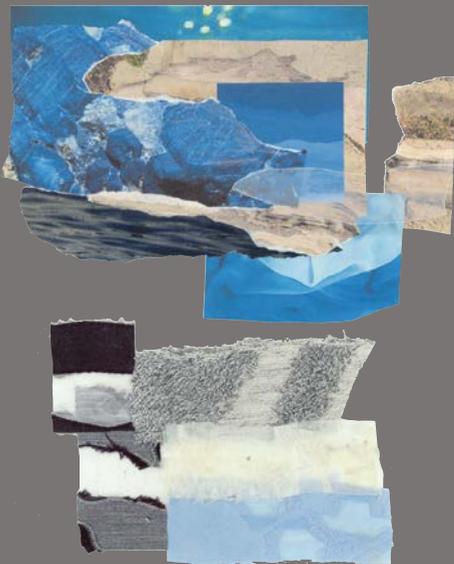


■製作にあたって

テキスタイルの発想元は置かれた洗濯物が崩れているのを見た事からインスピレーションを受けました。その光景が地層に見えると感じ、柄は地層をイメージして、ボーダーをゆるやかに崩した様な形にしました。色や質感は最初のイメージの洗濯物から「水」「泡」「水面の光」「地層」「青鉛石」から淡い青ときつめの青、ごつごつした雰囲気にと考えています。春、夏用の生地として、素材は麻もしくは綿を用い、柄はジャガード織りで色と色の区切りをカット表現で(境界)でインパクトを与えます。袖の部分は身頃とは異なる素材、生地で切り替えるスプリングコートのデザインです。

IMAGE

B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

もっと大きな幅の入り組んだ層の柄をイメージしていたのですが、匠講師と相談していくうちに均等なデザインになりました。色はイメージに近づけて頂けてとても良かったです。

TEXTILE



●協力 / (有)アサヒ紋工所、伊東紡織、みづほ興業(株) (順不同)

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

決まった幅に合わせたり、ジャガードの制限の中で柄を決めるのが難しかったです。

ZOOM

W82%、R12%、N6%



TITLE
Kiriko

F.S



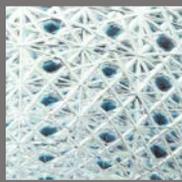
■製作にあたって

日本の伝統工芸である江戸切子をイメージしデザインしました。江戸切子を持つガラスのシャープさや冷たさなどを表したいです。そのために、緯糸のバリエーションで色の変化をつけ、1枚の布の中にいろいろな表情をつけたいと思っています。また、触ると平面でありながらも速く見ると立体感や陰影がついているなど織り方で工夫をし、素材におもしろさをプラスしていきたいと思っています。そしてウール素材の特徴をいかして、デザイン画のようなシルエットを出せるように、張り感と落ち感が出る素材を作りたいと思っています。

B.S



柄のイメージ



IMAGE



素材の色のイメージ



素材の光沢感・質感のイメージ



■当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージ通りのすっきりとした質感の仕上がりになり、光沢感もしっかりと出すことが出来て良かったです。当初は柄に凹凸感を出し陰影をつけたいと考えていましたが、アピカ加工をしたことで光沢と陰影がいたので良かったです。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

糸の色選びが一番大変でした。どの色を主とする色にするか、グラデーションはどの色を合わせるかなど、素材作りにとって色はとても重要なことだということを学びました。

TEXTILE



ZOOM

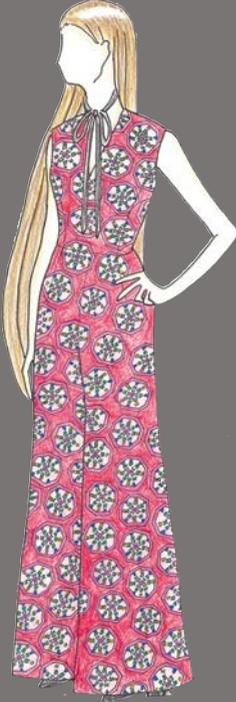
W53%、Sl25%、Ly22%



●協力／浅四毛織工業(株)、(有)アサヒ紋工所、(株)ト一、
(株)長谷川商店、万平(株)、(順不同)

TITLE
万華鏡

F.S



■製作にあたって

万華鏡をイメージしてデザインしました。一つのモチーフの中に何色もの色が組み合わせられキラキラと輝く様子をテキスタイルに落とし込み華やかで、バツと目を引くようなデザインの洋服を作りたいと思いました。生地はジャガードの生地で複雑なモチーフを表現したいと考えています。また、万華鏡のキラキラ感も出したいのでたくさんの色の糸を使用し、ラム感のある糸も使い光が当たった時にキラキラと光を反射するようにしたいと考えています。華やかなテキスタイルなのでパーティーで着ることが出来るようなジャンプスーツをデザインしました。

IMAGE

B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

地の赤の鮮やかさと、万華鏡のモチーフ全てがイメージ通りになりました。初めは黒で緑取りをするつもりはなかったのですが、川村先生に緑取った方がいいとアドバイスを頂き緑取りをしたところモチーフがハッキリととてもインパクトのある生地に仕上がって良かったです。ファンシーヤーンを6パターン使ったのでとても豪華に仕上がりました。イメージ通りの華やかな素材が仕上がって良かったです。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

最後に糸を全て切る際に、装飾のついているファンシーヤーンはその装飾ごと切れてしまい残念でした。糸の配置やモチーフの図面を考えるのが大変でした。初めはラム糸で万華鏡のキラキラ具合を表現しようと考えて居ましたが、ファンシーヤーンを複数本使うことでこんなにも華やかになるということを学びました。

TEXTILE



ZOOM

W74%, An/R/N26%



●協力/MKカンパニー、(株)神戸企画、後藤慈ニット(株)、
艶金化学繊維(株)、豊島紡績(株)、尾泉染色(株)、
山勝染工(株) (順不同)

TITLE
雨

F.S



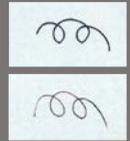
B.S



■製作にあたって

素材デザインは、白黒で「ペン画」をイメージ。雲から雨が降りそそぐデザインを施した。繊細かつ大胆なペン画の迫力を表現するために、素材は尾州産地特有のウールの黒糸を使用する。ベースとなる糸はシンプルに白でまとめ、ペン画をイメージした柄を引き立たせるようにしたいと考えている。上部の真っ黒の部分は雨雲が迫り来る様子をイメージした。素材は変わらずウールの黒糸を使用する。これらを踏まえ織りの美しさを出しつつ、女性らしいセットアップの洋服を仕立てるための生地を製作したいと思っている。

IMAGE



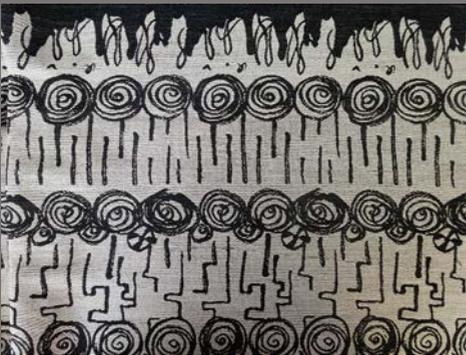
■当初のイメージと製作した素材との比較

デザイン画を少し変更したが、当初のイメージと変わらずイメージ通りだった。手描き感やペン画感が引き立っており、とても満足している。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

柄の大きさ、見た時にわかりやすい柄(線)の太さ等を考え服になった時の面白さなど、デザインする事を苦労した。なるべく厚く作っていたため、ヨレのようなものがおきてしまったが、アイロンで直すことが可能と学んだ。

TEXTILE



ZOOM

W100%



TITLE
迷彩柄羽毛ニット

F.S



■製作にあたって

尾州産地の毛織物は、軽くて上質な風合いが特徴だとお聞きしました。その風合いを活かしつつ、新しい毛織物の表現を模索すべく、羽毛の感じに仕上げた生地を作りたいと思いました。羽根は硬めの羽枝に羽弁が外側に広がり、その細部が絡み合いながら柔らかい風合いを出しています。そのため、毛糸の柔らかさを、やや硬めの芯糸につなげることでこういった羽根に似せた表現ができるのではないかと考えました。また、羽根の特徴として芯から外に向かいきれいにグラデーションしていく色味を活かし、迷彩柄の色味を取り入れてみたいと思います。

IMAGE



■当初のイメージと製作した素材との比較

毛足の長さや色味などを講師の川村先生と綿密に相談したおかげで、当初のイメージに近い素材を作ることが出来ました。また、起毛した毛足の密度を期待以上に密に編んでいただき、羽根のリアル感が一層増した様感じます。

TEXTILE ①

①W80%、Pe20%



■新たな発見や学んだ点、苦労した点

生地を作った後に起毛させるといった当初の予想とは別に、糸の段階から意匠糸を作り、製作していった部分がとても勉強になりました。毎回東京から来るのは大変でしたが、生地がイメージに近くなっていくのを見ていると疲れも忘れ作業する事が出来ました。

TEXTILE ②

②W100%



●協力／東和毛織(株)、尾泉染色(株)、藤井整絨(株)、(有)捲春、山勝染工(株) (順不同)

TITLE
MID NIGHT IN PARIS

F.S



B.S



IMAGE



キラキラした箔が
混紡された糸。

■当初のイメージと製作した素材との比較

ニットヤーンを緋染めしたことで光の粒というイメージは上手に表現出来たのではないかと思います。色が全体的にデザイン画より暗くなってしまったので、ガーメント製作時にデザインに合わせ原毛を染め、ニードルパンチでもう少し色を明るく強弱をつけていけたらなと考えています。

TEXTILE



●協力／小笠原(株)、(株)ト一、茶仙染工(株)、山内毛織工場
(順不同)

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

手織りと異なり、小さなサンプルを何度も作れないという点に、完成したときのイメージを想像するのが難しく苦労しました。布の用途によって、使用する織機が違うということを知り、織り方によって風合いが変わってくるということが面白かったです。

ZOOM

W45%、N18%、R37%



TITLE
たそがれ

F.S



B.S

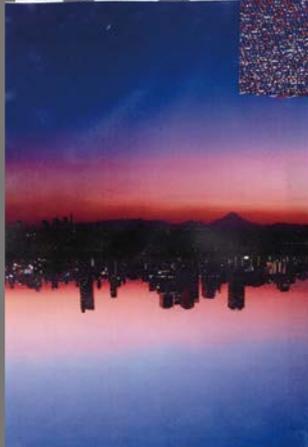


上 下

■製作にあたって

黄昏時(誰そ彼時、逢魔時、大禍時)と言われる夕方18時頃の空をテーマに、暗くなり始め昼と夜の間にあたる美しくも怪しい雰囲気のある空のグラデーションや、雲、背景のシルエットをイメージし、紺や糸色の使い分けによって空のグラデーションを、ジャガード織りによる生地凹凸、立体感によって雲や背景のシルエットを表現したいと思います。

IMAGE



■当初のイメージと製作した素材との比較

空のグラデーションの画像イメージを基に製作して頂いたため、実際の生地ではイメージが100%出ないかもしれないと予想はしていましたが、予想を遥かに超えた素晴らしい素材になりました。

TEXTILE



●協力／大津毛織(株)、春日井毛織、東和毛織(株)、サンファインウール(株)、(株)ソー、森織物(資) (順不同)

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

織りだけでなく仕上げ加工によって表情が全く変わる点や色の出方など勉強になる点が多かったです。



ZOOM

W89.4%、N5.5%、Km4.3%、Alp0.8%



TITLE
Score

F.S



■製作にあたって

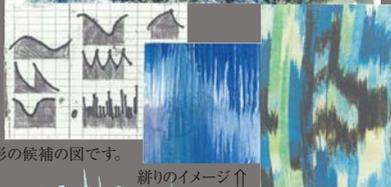
僕は音楽を聴く時、音の重なりを意識します。主に電子音楽やループミュージックでは繰り返されるフレーズメロディがいくつも重なり合うことで、一つの全体像が浮かび上がってきます。大学にてタペストリーを制作した際、細い糸が一本一本積み重なって、大きな一枚の織り物になっていく印象を受けました。そしてその様子が、音が集合して楽曲が成り立っていく点と共通しているように感じることがあります。デザインのテーマは、「無機質な形の中に、生身の暖かさが灯っているようなイメージの音楽を、テキスタイルの上で表現する」というものです。まず似たイメージを持つ既存の曲から想起される景色をドローイングし、それらを一つのメロディとして波形を参考に切り取り、組織織のパターンをテンポに見立て、メロディを貼り、模様、柄のイメージを完成させました。(生身の暖かさから、ドローイングは冬が寒い自分の故郷から着想しました。) 出来上がりは、肌寒い季節に羽織れるジャケットを考えています。暖かさを感じさせたいので、ウールを素材の候補にし、柄を際立たせたいのでジャガードを考えています。緋の表情を強く見せる事で、それぞれの音の像が絡み合っていくように見せたいです。

IMAGE

B.S



←
いくつもの音がイメージのドローイングを切り取り重ねています。様々な形、色が混ざりあつて見えるようにしたいです。



← 過去、大学で制作した緋り織り作畷です。

⇒ 波形の候補の図です。

緋りのイメージ

・揺らぎ
・波形
⇒



↑ 同じく青が基調になっていて白、茶、くすんだ青などがチラチラ見えているのが、イメージとともに近い生地でした。

■当初のイメージと製作した素材との比較

当初は、ジャガード織りでイメージしていましたが、立体感の強いドビー織りが魅力的で、触って面白くもあり、そちらに変更しました。緋糸を使い、時折動きのある色を見せることで、パターン柄ではあるけれど、見て飽きさせないものになったと思います。

TEXTILE



●協力 / (有)岩村染色、(有)サンテクノ、(株)ソトー (順不同)

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

それぞれの工程の特徴を掴んだ上で、生地デザインを考えていくのが難しく、戸惑いました。様々な工場を見学させて頂き、その現場のルールなど垣間見ることが出来ました。

ZOOM

W100%



TITLE
花 火

■製作にあたって

テーマは花火です。花火は夜空に花開いたと思ったらすぐに消えてしまいます。その一瞬の美しさを切り取って服に落とし込みたいと思います。ベースは暖かみのあるウールの黒い生地になります。花火の柄は、素材や色の違う糸を織り込んで作っていきます。毛糸の様な太い糸から、絹の様なつやのある細い糸まで使い分けて、様々な種類の花火を表現したいと思います。色とりどりのグラデーションにして、更に凹凸感も出して、立体的に仕上げます。夜空に花火が大きく咲き誇る様子を表現する為、大きく広がるサーキュラースカートの切り替えワンピースにします。花火も職人技ですが、この作品も尾州特有のウールと匠の技をかけ合わせ、完成した暁には、大勢の人を魅了させられるよう、努力します。

F.S



IMAGE

B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

花火の柄をいかにして出すかがポイントでした。当初は、1つ1つの花火の大きさや色合いを変えてデザインしましたが、ランダムに大きさや色を変えるのは難しかったので、大きさは統一しました。色については、緋染めした4種類の糸を変えながら織り、色合いの異なる3種類の生地が出来上がりました。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

今回提案した柄の花火が中心から外側に開く様子を表現するのはとても難しいと思っていましたが、ジャガード織りで見事に表現されていて驚きました。何種類ものファンシーヤーンを使用する事で生地に表情が出る事、緋染めとはどういったものか、また実際に織られて柄が出ていく様子を見せていただき、全てが新しい発見で、とても勉強になりました。

TEXTILE



●協力/岩安毛織、鶴飼毛織、(有)カーネレ (順不同)

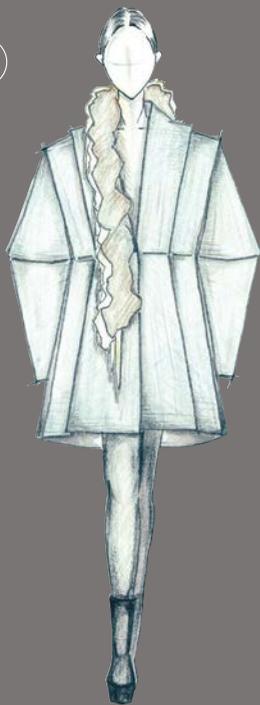
ZOOM

W69%、C29%、N2%



TITLE
Stone

F.S



■製作にあたって

山岳地帯から採取できるような角張っている鉱石をイメージしています。誰が見ても美しく思わせる鉱石の神秘的な美しさを表現したいです。生地は、鉱石の鋭く角張った表面、自然が作り出す色味、質感を出すためにメルトンやダッフル、厚手のファンシーツイードなどをベースにハリ、コシのある堅めの生地の設計を考えています。素材は、鉱石の持つ透明感や光沢感を出すために、ビニールやラメ糸などを幅広く使用したいと考えています。

B.S



IMAGE



■当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージと違いはなく、想像以上の仕上がりになったと思います。当初からイメージしていた鉱石のキラキラとした光沢感やサラッとした質感をしっかりと表現出来ていると思います。

■新たな発見や学んだ点、苦勞した点

全て初めての体験でたくさんの発見がありました。その中でも仕上げ方法で生地の表情が大きく変わることによって衝撃を受けました。プレスが強めにかかったことで本物の鉱石のような雰囲気が出たと思います。

TEXTILE



ZOOM

W81%、Alp15%、Pe2%、N2%



●協力/㈱ソー、東和毛織(株)、有捲春 (順不同)

TITLE
Strong Woman

F.S

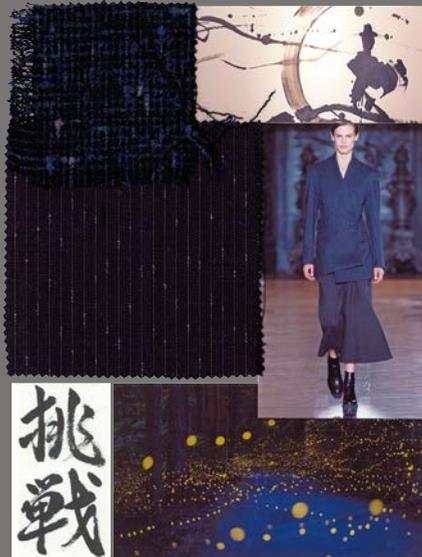
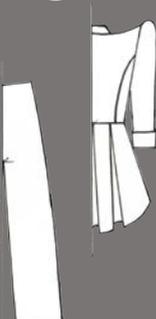


■製作にあたって

1980年代を象徴する「肩パット」に注目しました。1980年代は、女性の社会進出により、女性がパワーを得た時代でした。しかし25年経った今、女性は社会に進出していますが、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方が残り、男女が対等とは言えないと感じます。そこで、80年代のビッグショルダーに女性の本当の強さを表現しました。素材のデザインには、書道の筆による墨の入れ方を活かしました。筆の動かし方、墨の入れ方で太くなったり、柔らかなタッチになったりする変化を、生地にも取り入れました。現代の要素としてキラキラや透明感を加えるため、暗闇の中を蛍が飛んでいるように、縦の変わりストライプにラメを部分的に入れました。

IMAGE

B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

当初は、ラメをノットヤーンと同じように縦に入れたかったのですが、糸が切れてしまうため、横に入れることになりました。しかし、カラフルなボンボンによって、蛍が飛んでいる様子を可愛く表現することができました。

TEXTILE



●協力／(株)ソー、橋本毛織(株) (順不同)

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

講師の方のお話や、工場見学を通して、たくさんの織り方や加工の仕方があることがわかりました。多くの職人の方々に携わって頂き、服地制作をするのは初めてで、細かな部分までイメージを伝えるのは本当に難しいと思いました。具体的にイメージできているかがとても重要だと学びました。

ZOOM

W75.7%、N15.8%、Te8.5%

